戦略的大学改革・イノベーション創出環境強化事業　令和8年度申請に関する所見

国立大学法人

九州工業大学

（審査・評価委員の所見）

・取り組み自体はとても素晴らしい。ただ、九工大型 URA のスキームがまだ練れていないと思われる。この問題にはまだ事務局全般のプロフェッショナル化、財務会計の体制づくりなどが入ってない。その意味で九工大のモデルは大型の大学には難しいと思われる。それが今後の課題か。

・AI エージェントシステムの開発状況が確認できた、今後の大学経営の中核となる基盤ツールとなりそれを如何に大学経営メンバーが活用するか、模範事例を作っていただきたい。フィジカル AI テストベッドとして、企業と連携した標準化や規制・ルール検討を含め、国際的な中核拠点となるような取り組みを産官学地域連携で進めていただきたい。

・今回開発する AI モデルは、既に 40 大学で活用されていることから、本事業で得られる成果についても、他の大学への横展開が期待できる。北九州で実施するフィジカル AI の地域実装についても、今回の取組をモデルケースとして、今後、他の地域へ広く展開されることを期待する。

・九工大 URA は、他大学への横展開可能性を秘めた極めて意欲的な試みとして高く評価できる。今後は、現場の課題構造化に留まらず、産業界の真のニーズを精緻に汲み取れる仕組みへと、システム自体の完成度をさらに高めていくことを期待したい。また、大学連合（九州大学、熊本大学等）との連携において、AI モデルを通じたデータの共有化やエコシステム運用の展開は、地域全体の社会実装力を底上げする観点からぜひ強力に推進してほしい。PI 人件費や間接経費の還元といったインセンティブ設計によって学内教員の理解と主体的変革を促す方向性は正しいと思うが、運用開始後に基礎研究の軽視への懸念など多様な課題が生じることも想定される。今後、直面した課題やその解決プロセスについても、内閣府等の関係省庁へ積極的に情報共有し、全国の大学改革のモデルケースとして提示してほしい。

・基礎研究と社会実装の間をつなぐ大学側からのアプローチとしては評価出来るし、又期待もしたい。他大学とのデータ連携の取り組みも評価出来る。但し、産業界側がこの仕組みを活用したいと考え、積極的に活用する方向へ向かう為には AI の機能強化に加え、知財の取り扱いや、ビジネス化に伴う大学への reward など制度的な追加的検討を進めて欲しい。

・多くの大学と連携して AI エージェントシステムの開発を進めており、十分に検討して大学を挙げて進めていることが伺える。海外との連携について、より広く展開していくことを期待したい。大学の強みを活かした計画であることを評価したい。

戦略的大学改革・イノベーション創出環境強化事業　令和8年度申請に関する所見

国立大学法人

広島大学

（審査・評価委員の所見）

・動的コンソーシアム管理という取り組みはかなり魅力的であると同時にその「管理」の仕組みや「ガバナンスのあり方」はこれからではないか？また、連携大学の中でもさまざまなレベルがあるだろうが、この中での広島大学の機能がまだ見えない。コンソーシアムの作り込みを中心の大学で同意できるかが鍵ではないか？

・海洋海事拠点として造船 10 大学連携を推進する点については非常に期待できる、特にフィジカル AI 領域で造船 AI など国家的なプロジェクトが進む中で、特に国際展開も意識し、海洋海事産業の国際競争力強化の為の役割を発揮していただきたい。また、当該領域は、デュアルユースに係る非常にマネジメントが重要な領域でもあり、今後丁寧に大学のガバナンスも整理していただき積極的にイニシアティブを発揮していただきたい。

・造船関連大学との連携に加え、商船高専や海上保安大学校との連携も進めることで、技術課題の解決につながることを期待する。社会実装を進めるにあたっては、産業界との連携をさらに強化し、実用化につなげるための積極的な取組を期待する。

・造船・海事という我が国の基幹産業に対し、大学の強みを発揮して経営資源を重点投入する（シフトする）提案は極めて重要であり、大きな社会実装成果を期待したい。一方で、全学一元人事制度を通じた既存リソースの削減・再配分（縮小・重点化）の具体的な規模やタイムライン、および『造船 10 大学間連携』における各大学・機関の技術課題別の具体的な役割分担（愛媛大学等との連携を含む）については、未だ解像度が低いと言わざるを得ない。これら他大学等との連携や動的な再編マネジメントについては、もう一段の具体化を求めたい。
また、参画企業間におけるオープン＆クローズ戦略（共通基盤と競争領域の切り分け）の方向性は妥当であるが、実際の社会実装フェーズにおいて企業間の利害調整や知財の対立、あるいは事業方針の修正・撤退が生じた際、大学が『社会実装の上流設計主体』として主導権を握るための具体的なルール設計（ガバナンス上の取り決め）については、さらに一歩踏み込んだ制度化が必要ではないか。

・造船・海事分野強化の為の本事業資金の活用と J-PEAKS 資金による半導体等研究力の強化との棲み分けは妥当。デュアルユース技術への対応についての大学側の考え方について、現段階での整理は妥当と思われる。

・造船の分野での極めて重要な事業である。国内の関連大学、企業との連携を図り、我が国の中心となって事業を推進していただきたい。デュアルユースに関しては課題もあると思われるが、本事業の中で適切に対応していただくことを期待したい。

戦略的大学改革・イノベーション創出環境強化事業　令和8年度申請に関する所見

国立大学法人

豊橋技術科学大学

（審査・評価委員の所見）

・この試みはとても興味深い。企業の中央研究所的活動は、限られた企業以外ではほとんどが死滅してしまっている今、大学の中に中小企業も含めて中央研究所的活動を呼び込んでいくという計画は素晴らしいと思う。大阪大学の Industry on Campus なども参考にさらに検討を続けてほしい。

・一気通貫の LSI 試作環境で既に企業との連携も進め、企業の R&D、PoC 環境を大学が担っている点が評価できる。また、高専ネットワークを活用した人材育成も進めている点も評価でき、今後の我が国の AI・半導体実装化における人材育成の拠点となることを期待する。

・半導体分野の国際競争力を高めるためには、大企業だけでなく、スタートアップや中小企業の研究開発力の向上も重要である。これらの企業への支援にも積極的に取り組むことを期待する。

・8 インチ一気通貫 LSI 試作環境をプラットフォームとして提供し、1 億円規模の共同研究を志向する点はユニークで、大いに期待したい。ガバナンス改革、データ駆動型経営も提案としては優れているが、実際に進めていく上では課題も多い。具体的には、有期スペシャリストから一般職員への知の移転や、トップダウンによる事業の早期撤退をどのように進めていくかといった点である。これらの取り組みは全国の大学改革へのヒントにもなるので、ぜひ今後の情報を共有してほしい。

・「大型マッチングファンド案件」への取組みは意欲的。人材育成に関して「長期滞在型」での企業からの人材活用が有効に拡大していくことを期待。

・企業との連携という点で興味深い事業である。中京地区だけでなく国内の企業との連携を広く展開することを期待したい。